

(別紙1)

## 総括研究報告書

課題番号	2022E-4	
研究開発課題名	成育子ども・周産期シンクタンクの基盤強化と推進に向けた研究	
分類※	<input type="checkbox"/> ① <input type="checkbox"/> ② <input type="checkbox"/> ③ <input type="checkbox"/> ④ <input checked="" type="checkbox"/> ⑤ <input checked="" type="checkbox"/> ⑥ <input checked="" type="checkbox"/> ⑦	
区分	<input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input checked="" type="checkbox"/> E <input type="checkbox"/> S	
主任研究者	所属	国立成育医療研究センター研究所政策科学研究部
	役職	部長
	氏名	竹原 健二
実施期間	2023年 4月 1日 ～ 2024年 3月 31日	

※分類は下記①～⑦より選択

- ① 日本の成育分野の疾患の研究の基盤となる研究
- ② 診断、治療及び予防法の開発に関する研究
- ③ 発症機序や病態の解明等を行う研究
- ④ 診断や治療のための基準の開発等に関する研究
- ⑤ 患児・者のQOL向上に結びつく研究
- ⑥ 研究的視点や技術をもつ医療従事者を育てるための研究  
(プロトコル作成のフェージビリティ研究)
- ⑦ 政策提言に結びつく研究

### 成果の概要

今年度は令和4年度末に作成した「令和5-6年度2か年事業計画書」にもとづき取り組んだ。主要課題である「1. シンクタンクの運営」、「2. こどもアドボカシー体制の基盤構築」、「3. データ利活用基盤の構築」、「4. 社会実装支援」、「5. 人材育成」はいずれもほぼ計画通りに進んでいる。詳細は以下の通りである。

「1. シンクタンクの運営」…順調に進捗している

週に1回の実務担当者の定例会議、月に1回の全体会議を実施している。関係機関との連携体制の構築として、こども家庭庁からの受託業務の獲得や検討会への参画、様々な政策担当官との連携体制の構築をおこなった。自治体との連携では、三鷹市や横浜市、飛騨市などとの連携が始まった。周知・広報として、シンクタンクセミナーを計10回開催し、各回100人以上の参加が得られた。活動紹介の冊子(年報)を作成し、学会などで関係者に配布した。

「2. こどもアドボカシー体制の基盤構築」…順調に進捗している

こどもの意見を収集する調査基盤のパイロット運用として、こどものマスクに関する意識調査の結果を公開した。また、こどもの意見を代弁できるこどもや、専門家の養成に向けた教育

プログラムやワークショップを企画し、その活動資金の獲得に動いた。

### 「3. データ利活用基盤の構築」…順調に進捗している

データアイドリングの一環として、人口動態調査と国民生活基礎調査の2つの基幹統計について、当センターの法人としてデータ提供を受領した。その統計調査について、当センター職員を対象にした説明会を開催した。子どもに関する様々な健康課題について、関連する指標をまとめて情報提供する試みとして、「こどものイマを考える」の発刊・公開をおこなった。

### 「4. 社会実装支援」…順調に進捗している

全国の市区町村の母子保健担当課を対象に、行政計画（こども計画・成育医療等計画）の策定に関する実態調査をおこなった。「こども誰でも通園制度」のモデル事業について、EBPM推進室からの委託事業を受託し、この事業の評価計画の策定や分析をおこなった。飛騨市が来年度から実施する思春期健診事業の評価計画の設計・実施に関する伴走支援を開始した。

### 「5. 人材育成」…順調に進捗している

JSTより研究費を得て、こども政策のEBPMサイクルの阻害促進因子、介入策を把握するための文献レビューと、質的調査を実施した。その成果は日本公衆衛生学会で報告した。

### 外部資金の獲得

シンクタンクの活動拡大に向け、本研究を基盤に外部資金（研究費・事業費・助成金）の獲得に取り組み、2024年3月末現在で、5件（2024年度で約2,200万円）が採択された。